



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年6月1日

6月号・第173号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



里芋畑の除草(エコファーム)

Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

新旧会長挨拶	1	やさしい病害虫講座	12
多土済々	2	俳句百景	13
Monthly Repo.ならやま	3	癒しの散歩道&ならやま茶論	14
里山の今	4・5・6	ギャラリーならやま	15
アースデイ・報告	7	ならやまプロジェクト	16
4月・歴文研修会・報告	8	行事案内 part1	17
第15回通常総会・報告	9	行事案内 part2・仲間入り	18
新幹事抱負・1	10	幹事会報告・編集後記	19
新幹事抱負・2	11		

新旧会長挨拶



退任のご挨拶

藤田 秀憲

第15回総会の終了をもって、4年間の会長の職務を終え、鈴木新会長へバトンタッチすることができ、ほっとしています。

この間、会員の皆様方、役員の方々には暖かいご支援とご協力をいただき、大過なく今日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。また、県・市をはじめ関係諸団体や地域自治会の皆さま方から多大なご支援とご協力をいただき、お陰さまで「奈良・人と自然の会」は奈良県下有数の環境ボランティア団体として評価を頂くまでになりました。関係先の皆さま方に紙面をお借りして御礼申し上げます。

さて、今年の9月24日には、当会発足15周年を迎えます。これまでの15年の歩みを踏まえ、新たなる活動を進めるための指針として、新たに「理念」が制定されました。

ボランティア団体が活動を継続していくためには、「人材」と「志し」と「資金」の3つが不可欠であります。当会はこの15年間の諸先輩方の研鑽と努力が実って、ようやくその基盤が固まってきたのではないかと考えています。

鈴木会長を中心として役員の方々や会員の皆さま方が、力を合わせ当会の発展にご尽力いただくとともに、「奈良・人と自然の会」が自然との共生をめざし、地域社会に貢献し、会員の皆さま方の生き生きした活動の場であり続けますことを願って已みません。

私も、一会員として活動に参加させていただき、初心にかえり「人と自然のあり方」について勉強したいと考えています。

これまでのご支援ご協力に深く感謝し、退任のご挨拶といたします。ありがとうございました。



壮春力歩

鈴木 末一

呱呱の声を挙げて早15年の年輪を刻んできました。「たかが15年、されど15年」とは言え、無から有への生みのエネルギーは筆舌に尽くしがたいものであったことと思います。

草創期から発展期、そして充実期へと着実に歩を進め、輝かしい足跡が印されてきました。設立当初から自然観察会、野鳥観察会、歴史・文化ウォーク、講演会など、盛り沢山なイベントを企画し実施されたことが、草創期の会報誌に記されています。当初の意気込みが、今日迄連綿として受け継がれています。

15年が経過した今日、「わたしたちは大和の自然を愛します」の合い言葉の下、良識ある個性と自己実現を大切にしていかなければなりません。

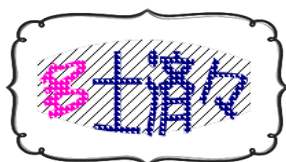
記念すべき節目の年に当たり、これからの5年10年という中長期に亘るビジョンを明確にする出発点であります。

そのために、次のような方針・理念と事業を進めてまいります。

- 1、会員間の親睦を深め、絆を強めるために、お一人お一人が主役であること。
- 2、より一層地域社会と連携を図りつつ、市民活動としての礎を強化。
- 3、記念事業推進体制作りにも努め、過去と未来を繋ぐ節目に相応しい活動。
- 4、「ならやまユートピア」構想の具現化。
- 5、シンクタンク的な先達グループの創設。
- 6、既存の三本柱にクラブ活動も含めた、総合的な組織体制の構築。

以上、重責を担うに当たり、決意の一端を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

どうかよろしくご指導ご鞭撻賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。



小島 武雄 さん

パトロールリーダー

顧問 阿部和生

胸から腹に続くネクタイ(?)のシジュウカラが、ならやまベースキャンプ地で巣籠りしています。弓場さんが素敵な様子を撮影してくれました。小島さん宅では、この春9羽ものシジュウカラが子育てしたのを、見守られたそうです。ならやまでの自然観察に見られる様に、日頃から優しい視線で自然を捉えておられる様子が目に浮かびます。



成人の7%がマラソン大会に参加した経験があるそうです。小島さんも50代から始められ、あちこちの大会にも参加されていたそうで、健康には自信をお持ちでしたが、ある時「何か変だ」と気づかれ対処し健康を取り戻されたとお聞きしました。

根っからのスポーツマンですから、現在は、もっぱら“ならやま”へのご参加やジョギング等負担にならぬよう、ハードな活動を避けて自重しておられるそうです。多趣味な活動の中でカヌーでの川下りは「特別な感慨を味わうところで、とても素晴らしい!川面に浮かび左右を眺める景色は、全く異次元の世界」と言われます。淀川を下る「至福の時」を時々持たれるそうです。

この地球上のすべての生命は海から生まれたと言われています。体液は海の成分とよく似ているそうです。従容と流れに身を任せ、時には櫂を動かしながら、水と親しむ心安らぐ別世界なのでしょうね。



ならやまパトロール班リーダーとして 観察路

の点検・整備、植生観察、新ルートの探索など多様な対応を、11名の皆さんと共に活動をされています。観察路にはポールが立ち、番号がうたれ、危険個所にはロープを張られたり、階段を刻み込まれたり安全への配慮も忘れません。業者作製とも思えるような案内版も出来上がっています。

多くの人々がこの里山林を訪れ、観察路をめぐり、感動を得て帰られます。シニア自然大学校受



講生の実地研修では、午後の里山林観察はパトロール班と同行、とほぼ定番化されていてとても好評です。ゆとり

を取り戻す会員の四季の観察も始まりました。イベントでは、この里山林の魅力を引き出すゲームや観察を心掛けておられます。

一般の方々にまだ里山林を開放しているのではありませんが、観察路を散策される方が増えているのを実感します。過日も偶然に山から出てこられる方とばったり出会いました。「里山いかがでしたか?」「以前からこのあたりを散歩している者ですが、ここ数年山道が整備され、気持ちよく歩いています。皆さんのおかげです」と感謝されてしまいました。日頃のパトロール班の方々のご奮闘の賜物と思ったことです。

28年度【自然学習の場として気持ちよく安全に散策できるように、環境作りと保全を行う】とパトロール班の思いをまとめられ、スタートされました。活動日、4ルートの一つを二人のペアで回られています。この時パトロール班以外の方でも二人でもご参加があれば、なお一層里山林の良さに気付いて頂けるのではないかと思います。

「安らぎの都市林」として、やがては多くの方々に活用していただける基礎を、営々と今もまた積み上げが続いています。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

4月21日(木) 活動 曇り時々雨 58名+3名

生憎の天候の中の活動になったが、多くの参加者を見る。しかし降雨のため作業は午前中で終わるが、今週も竹の子が沢山収穫でき、昼食時に竹の子の味噌汁やてんぷらを堪能する。やはり「美味しい」の一言。また、地域から3名のビジター来訪。里山Gは薪割りに、エコGはジャガイモの芽かきや追肥、土寄せ等に、景観Gは竹の子採りの他、第5地区のヒマワリ播種に時間いっぱい取り組む。花班は山野草園の整理、パト班も第3コースの巡回に出る。



4月29日(金) 臨時活動 曇り一時晴れ 39名

不安定な天候が続く、今日は臨時活動日となった。しかし、夏に向けての準備が続く。里山Gのシイタケほだ木棚の準備やエコGの畝作りやマルチ張り、苗代準備等々盛り沢山の作業が続く。また景観Gはヒマワリの播種、ビオ班は池の整備、そして花班やパト班の巡回とこちらも大忙し。打ち合わせでは総会の準備や会の運営に関する大切な諸連絡が行われる。また、今日も沢山の竹の子が収穫された。「もう飽きた」といった声も聞かれたが、それでも有難いことである。

5月5日(木) 活動 晴れ 62名+6名

GWにもかかわらず沢山の会員が集まった。最初にサイトを南側に移動した後、協働作業に入る。彩の森の植樹木周りのメンテナンス作業だったが、一時間ほどで終了。その後、各Gはそれぞれの活動に。里山Gは薪割り小屋の製作、エコGはナスやトマト等の植え付けを中心に取り組んだ。また景観Gは佐保自然の森のヒマワリ播種の他、ビオ



班の水質調査、花班のサザンカ等の移植、パト班の第2コース巡回や観察路の草刈りと大忙し。シニアの実習

生5名と地域の見学者1名来訪。また本日から新入会員1名。

5月12日(木) 活動 晴れ 67名+4名

真夏を思わせる一日。しかし、多くの参加者が夏に向けての作業に汗を流す。里山Gは薪小屋の屋根葺き、エコGはナスの補植、そして景観GはBCの草刈りに精を出す。その他、ビオ班の池の整備、花班の夏花の種まき、加えてパト班もコース巡回やミーティングと時間を目一杯使ったの活動・作業が続く。シニア実習生4名来訪。今年度は例年になくシニアからの実習生が多い。なんとか一人でも入会に、と思う。

5月19日(木) 活動 晴れ 69名+2名

本日もシニアの実習生が2名来訪。少しでも当会に興味・関心を持ってもらい、入会してもらえたらなあ、とつくづく思う。里山Gは薪小屋作り、エコGは畑の草抜きや水田の水路の整備、そして景観Gは草刈りやベースキャンプの整備に取り組む。その他ビオ班は生物調査、花班は花の苗の植え替えを、パト班もコース巡回に出る。その他今週は、いよいよ大切な総会が行われる。中身の濃い充実したものになるように期待したいものだ。また、当会会員の急逝に対して黙祷を行った。



里山グループだより

廣田朋子

里山Gに参加して

ゴールデンウィークが終わり、梅雨の前、緑の美しさがひとときわ目に付く季節になりました。

昨年2月、孫のボーイスカウトのイベント参加で「ならやま」での活動を偶然知りました。ボーイスカウトの木村さんに活動内容を聞かせていただいて、4月から入会させてもらい、「何処に参加しても良いよ」と言っていただきました。

何処に参加しようかと考えましたが、私は木が好きなので、木工が出来る里山Gで活動を始めました。しかしエコファームの農作物の収穫や田植え、山での間伐、薪割り、枝打ち、椎茸の菌打ちなど、一年間に今までやったことのない経験と知らなかった自然の知識を多くの色々な方々に教えていただきました。本当にどの活動も興味津々楽しかったです。

山の中でやっておられる作業の手伝いでも(邪魔だったかも?)色々な方々からの声かけで、いつも気持ちよく参加させていただいています。

木工細工もうまくできないし、なかなか木の名前も覚えられませんが、自然の中で過ごせる幸せ、心がゆるむのを毎回感じます。

昨年末から、母の介護で短時間しか活動できませんが、参加した日は母にも季節を感じてもらいたいと里山の様子を話しています。

これからもできるだけ時間を作って、爽やかな空気に触れながら、緑いっぱいあふれる自然のエネルギーを感じたいと思っています。

おわりに、九州の震災が早くおさまること、そして震災前の生活に早く戻れることを願っています。



エコファームだより

山内京子

エコファームでは、冬野菜を収穫したあと耕運機で土を耕してもらい、堆肥を鋤き込み畝を作り、次の野菜たちを待っていました。

そこへ、育苗ハウスで育てられた夏野菜たちを次々と移植させているところです。

千両ナス、庄屋長ナス、桃太郎トマト、ミニトマトにも1本ずつ新しい土地を与えられゆったりしていることでしょう。昨年、枝豆・落花生を植えた所には4種類の南瓜(ロロン、なかちゃん、ほっこり姫、甘龍)を植えました。畝にマルチシートを敷き、苗を植える部分に穴をあけ、水をかけ湿らせ、ポットの土の中で根を張りめぐらした苗を、1本ずつ丁寧に移植しチップを置きました。硬い土にめげずしっかり根を張り、蔓を伸ばし葉を広げ、甘い実を実らせてくれるように見守り世話をしていきたい。他にもスイカ、甘唐辛子、パプリカ、紫唐辛子、甘唐美人、レタスなど、次々移植して畑は賑わってきました。

一方、3月に種イモを植えたジャガイモ畑に目をやると、芽かきの後すくと伸び、一面に紫色の花が咲きお花畑の様です。ジャガイモはナス科の野菜で、原産地は南アメリカで、初めは花を楽しむ観賞用だったそうです。日本には、17世紀ジャカルタからオランダ船で長崎に初入国。また、同じころ植えつけたサトイモは、所々に葉が出始めたが、全部が出そろうには今少し待たねばならぬのか。サトイモの原産地は、インド東部で、高温多湿が好きで乾燥に弱い。この花を見たことはないが、暑く日照が十分だと黄色い仏炎花が見られるらしい。

秋に植えつけた玉ねぎは、冬の低温と乾燥を克服し、土の中から少し顔をのぞかせ葉を日光の方に傾け、養分をため込み大きな玉を作っている。エンドウ豆はしっかりネットに巻きついて鞘を膨らませ大きな実を付けている。間もなく皆様の食卓にも乗ることでしょう。

畑で野菜作りに関わりながら、万物の命のつながりと季節の移ろいを感じる日々です。

景観グループだより

下村晴文

草刈り隊奮戦記

草刈り隊は景観グループの一員ですが、シニア自然大学校の卒業生もほとんどいない個性的で魅力的な集団です。

活動日の朝、今日は誰が参加するのか、何人ぐらい集まるのか、さっぱりわかりません。草刈り隊の隊長は、人のいいOさん（どんな仕事でもすぐに引き受けてしまいます）です。活動日の朝、仕事の説明をしますが誰も熱心に聞いていません。それどころかちゃんと集まりません。だから現場に行っても「どこ刈るの?」「どうするの?」と聞きますが、誰もわからないので適当にバラバラに刈り始めます。草刈り隊は寡黙です。仕事中は無駄口をたたきません。(エンジン音がやかましいからだという人もいますが・・・)

草刈り隊は互いに協力し合うこともありません。(草刈り機の歯が怖くて近づけません?)
ですから、草刈り隊は一人一人が黙々と仕事をし、ものすごく熱心です。だから、時々草以外の大事な花・野菜までも刈ってしまいます。

それで、朝礼でよく怒られます。(皆、UさんかFさんのしわざだと思っていますが、口には出しません)

草刈り隊の守備範囲は広いです。ベースキャンプ周辺から始まり、彩の森・第5地区・佐保自然の森と進み、終わったころにはまたベースキャンプ付近に戻って草を刈ります。黙々と親の敵のように永遠に草刈りを続けます。

草刈りだけでなく、竹の伐採・そば畑の耕作など限りがありません。「昨日は梅の木の受粉・今日は筍掘り・明日はひまわりの種まき」と何も考えず、(一人、Fさんだけは知識も経験も豊富なので講釈を垂れますが、草刈り隊の中では異色の存在です)元気だけが取り柄と今日も頑張っています。

それでも、草刈り隊の歩いた跡には、夕日に輝く美しい里山の風景が広がっています。



パトロール班だより

小島武雄

パトロール班は現在10名です。活動日の午後にならやま自然観察路を4つのルートに分けていて、2名ペアで週ごとに巡回しています。

主な作業は、観察路の整備、丸太階段補修、倒木処理(可能なものはその場で片付ける)、頭上からの落下枝等確認処理、案内看板及びコースポイント表示杭補修、希少植物の観察、保護柵の設置、観察路にかかる笹草刈り、ゴミ掃除等を行っています。また季節の観察路のタイムリーな花木の開花状況をお知らせするのも、大事なことです。

先日は、大スズメバチ3匹が観察路のすぐ側で見つかり、駆除か注意喚起か相談の上、危険回避の注意看板を上り下り双方から2枚設置しました(菊川さん作製)。後日近隣の方から話を伺う機会があり、その方がスズメバチを見つけ、いつも通る道なので危険と判断し、自ら駆除業者に依頼して夜間に完全装備(白色防護服、赤色ランプ)で巣をやっつけたそうです。逃げた蜂は粘着テープで捕獲済みでもう安全とのこと。

活動はグリーンパトロールだと思います。もし違法ゴミ捨てや希少植物の盗難現場に遭遇した場合、毅然とした態度で、それを注意する必要があります。そのためにも、私たちが環境保全パトロールだと、相手に認識してもらう必要があります。班員は、ヘルメット、腕章、地図等きちっと装備をして、そのような場面に臨む事を再確認しました。腕章も分かりやすい物に変えるよう、現在班員で相談中です。それから、シニア自然大学校からの実習生の受け入れも大事です。観察路の案内で、ならやまの現況をつかむのと、里山の素晴らしさと感動を味わってもらうのも大切な役割です。



ならやま虫だより

菊川年明

◆シャクガ

鱗翅目(チョウ・ガ)の中に「シャクガ科」というガの1群がある。シャクガ類の幼虫は大部分が「尺取虫」という細長いイモムシで、シャクガという名前はこの尺取虫に由来する。

「尺を取る」という言葉は、ならやまに集まる方々には注釈の必要はないが、物の長さを測るということである。長さがおおよそでよい場合には親指と人差し指などの間を使って、幾つ分あるかで測ることがよくあるが、尺取虫の名前は、その歩き方が、人が指を使って物の長さを測るときの仕草によく似ているところからの名付けである。

また、尺取虫は草木の枝先で、腹部末端の疣足(いぼあし)を支えにして突っ立ち、さながら小枝を装う(擬態)ものも多く、このグループの尺取虫のガは「エダシャク」という亜科に分類されている。

エダシャクの尺取虫には「土瓶落とし」という異名もある。農作業に行くときに持っていった土瓶を、木の枝だと思って吊り下げたら尺取虫だったので土瓶が落下して割れてしまった、という逸話に由来するということだが、土瓶が吊せるほどの枝には化けられないから「巧妙な擬態」ということの譬え話であろう。

6月下旬頃のならやまでよく見られるシャクガにウメエダシャクがある。名前から「ウメから発生するエダシャク」ということがわかる。前翅の開張は40mm内外で、昼間にウメ畑の辺りをひらひらと飛んでいる。幼虫の食餌はウメのほか、サクラ、モモなど多種類の樹木に及ぶ。

(写真はウメエダシャク)



ならやま花だより

桜木晴代

初夏の心地よさを満喫する時期は短く、早や夏日が到来。しかし暑い日も寒い日もならやまの活動日は活気に満ちています。

この季節に咲いている里山の木々の白い花達にお気づきでしょうか?ハリエンジュ・エゴノキ・ヤマボウシなどが虫たちを誘いこもうと沢山の花をつけています。皆、白い花なのです。

もひとつ白い花を咲かせる木があります。ツクバネウツギです。第3駐車場近くの入り口付近から点々と生育しています。会報紙が届く頃には花はなく写真右下のようなガク片だけになっているかもしれません。花は来年、是非ご覧ください。

ツクバネウツギ



- * 5~6月に普通2個ずつ花をつける
- * 日当たりの良い丘陵や山地に生育
- * 名は果実の先端のガク片が羽根つきの衝羽根に似ていることによる(写真右下)

こぼれ話

東京オリンピックのエンブレムと作者が発表されました。作者の名は**野老(ところ)**。

読めない名前だと思っていたら、たまたま開いたラジオ深夜便5月号の最初のページに図鑑からのアマドコロの絵が。裏には漢字で**甘野老**とあり、偶然とは言え**野老さん**が身近になりました。



アースデー2016 inなら 明日香村 石舞台広場

4月24日(日)、菜の花が咲き誇るこの時期、毎年恒例のならコープ主催環境イベント「アースデー 2016 in なら」が明日香村・石舞台広場で開催されました。アースデー 2016 は、「吉野共生プロジェクト」「菜の花エコプロジェクト」「環境政策」「エネルギー政策」にもとづき 27 回目の開催となる伝統ある催しです。



【会場風景】

このところ3年続きで雨中での開催となり、今年も恐らく...と覚悟していたところ、当日は予想に反し、うららかな春日和となりました。

会場一番乗りは、アースデー常連のベテランスタッフ安川さん。聞くと8時前には到着し一人で会場設営に着手されたとか。私たち他のスタッフが



【開店準備完了】

が到着した頃にはお客さん12人分の作業台も既にセットされていました。(恐れ入りました。)

出し物は昨年に引き続き、好評だった「ブンブンゴマ」と「熊のストラップ」。2つ一組100円で工作指導をした上での販売と致しました。

この割安感と可愛らしさで、子供達に大人気、時には順番待ちの客が出るほどの盛況ぶり。

ブンブンゴマを初めて回し喜ぶ男の子。仕上がった熊のストラップを抱くようにして持ち帰るニコニコ顔の女の子。自分で作った喜びがこちらにもしっかりと伝わってきます。

この伝統ある催しに、当会ではイベント趣旨に賛同し2013年より出展参加、今年も12名のスタッフが参加しました。

見学していた子供達も我慢できず、お母さんにおねだりし遂には仲間入り、時間と共に売れ行きはドンドン伸びていきます。



【ここをこう持って、】

昼からは、協賛イベント「飛鳥歴史ウォーク」に参加されていた300名以上の我々と同世代のシニアウォーカーも到着。会場は熱気に包まれました。



【シニアウォーカー来場】

ステージでは、明日香の伝承芸能「八雲琴」披露、ブラスバンドによる演奏、ゆるキャラによる子供達との触れ合い、更には豪華景品の当たるビンゴゲームなど楽しい催しが行われ花を添えました。

その間にも私達のブースでは客足は途切れず、目の廻るような忙しさ。それでも子供達の嬉しそうな表情、目の輝きに触れると、私達の疲れもどこへやら、吹き飛んでしまいます。

会場では、開始・終了の時間厳守が徹底され、3時丁度に販売ストップ。全部で88セットを販売し今日一日の活動を終えました。

ご参加頂きましたスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。ご協力心より感謝致します。



【お疲れ様でした】

また、早くから材料となるクヌギやコナラの殻斗を収集し、台座となる材料や竹材料の調達にご尽力頂きました里山グループを中心とした皆様にもこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。(辻本 信一)

歴史文クラフ4月研修会

「近江路、湖西の道」 杉本 登



平成 28年 4月 26日 (火) 歴史文クラフ4月研修会の当日は、素晴らしい天気であった。

今回のテーマは「近江路、湖西の道」渡来人の足跡を尋ねてである。おうみの国は古くは淡海の国と呼ばれていた。中央に琵琶湖を有する豊かな国であり、古来から渡来人が多く定着した。近江は藤原氏の領国であり、藤原不比等の尊称は淡海公である。近江は京に近く、近江を制する者は天下を制すと言われ、古来権力者の争奪の地であった。

当日は晴天の下、27名の参加者があった。バスは予定通り西大寺を出発し、大津の三井寺に到着、ボランティアガイドの出迎えを受けた。最近はどこでもシアターのガイドが現地を案内してくれるので便利で助かっている。三井寺は飛鳥時代に創建され貞観8年(866年)に円珍により再興された。しかし、豊臣秀次を匿ったため秀吉により寺は破却され、多くの建物は延暦寺に移された。秀吉の死後、高台院(ねね)や徳川家康により伽藍は再建され今日に至る。そこで国宝の金堂を始め多くの建物は江戸初期のものである。



壬申の乱後、天武天皇が都を飛鳥に戻したのでわ

次に近くの大津市歴史博物館で学芸員より近江京遺跡の話聞いた。近江京は

ずか5年の都であり、まぼろしの都と呼ばれていた。長くその場所が特定できていなかったが、現在の大津市錦織地区がそうであることが近年の発掘調査の結果判明した。

新羅善神堂(しんらせんしんどう)は三井寺の北東に建つ社殿で、円珍が創建した。祭神は新羅明神である。源氏に所縁の深いところで何度も兵火に焼かれたが、源頼朝や足利尊氏により再建された。趣のある社殿は檜皮葺三間社流造で国宝である。午前中の探訪が終わったところで坂本に移動し昼食である。日吉大社の前の**鶴喜そば**本店に入る。この店は享保元年(1716年)の創業で300年の歴史があり、宮内庁にも納入している有名な店である。事前に注文しておいたそば定食(暖かいそば)を食べたが、なかなかうまいそばだった。

今度は、冷たいぶっかけそばにとろろをかけて食べたいものである。(断然うまい、と古川さんから教えてもらった)

午後は小野地区に移動し小野神社(餅、菓子の神様)、小野篁神社(学問、使節の神様)小野道風神社(書道、学問の神様)を回った。いずれも古風な由緒ある神社である。かつては国宝であった社殿の傷みが目立つのが惜しい。小野氏は日本書記に大和和邇氏の祖であるとの記載がある。諸国に多い小野の地名、氏族の発祥の地である。小野氏の有名人を挙げれば、聖徳太子の御世に初めて隋に使いした**小野妹子**(おののいもこ)がまず挙げられる。次に平安初期の漢学者、歌人の**小野篁**(おののたかむら)がいる。書道で有名なのは**小野道風**である。柳に飛びつく蛙を見て書道に励もうと一念発起した話はよく知られている。**小野小町**も絶世の美人であり歌人としても有名である。百人一首に小野篁と小野小町の歌が残っている。「わたのはら 八十島かけて こぎいでぬと 人には告げよ あまのつりぶね」小野篁「花の色は 移りにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせし間に」小野小町 近江の国は広い、今回は湖西の一部のみの探訪で湖北や湖東には行く時間はなかったが、ゆっくりと歴史を楽しみおいしいそばを食べ、帰路についた。

参加者の皆様にも楽しんで頂けたものと思う。

第15回通常総会開催

10年継続会員に感謝状の贈呈

平成28年5月21日(土)奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて第15回通常総会が開催された。

感謝状贈呈式

通常総会開会に先立ち、10年間会員継続され、本会の発展に尽力された篠原章二様、竹本雅昭様、寺田孝様、永井幸次様にそのご功勞に対し感謝の意を表し、藤田会長より感謝状が贈呈された。



【感謝状贈呈】



【感謝状贈呈式会長挨拶】

表彰された4名の方々から、入会のいきさつや自然観察会、月例研修会に参加しての感想など思い出話をご披露いただいた。

第15回通常総会

定刻の午後3時、通常総会が開会。

冒頭、司会の八木副会長から、出席者53名、委任状提出者75名で合計128名となり会員総数152名の過半数76名を満たし、本総会は成立した旨の宣言があった。

ついで藤田会長より開会挨拶があり、平成27年度を振り返り、ならやまプロジェクト、月例研修会、

自然教室への参加者が年間延べ3,600人を超え、特にならやまプロジェクトでは、60人以上の参加者が常態化し、各種同好会においても



【通常総会藤田会長挨拶】

活動の輪が広がり、会員相互のつながりも密接になってきた、との報告があった。助成金事業等については、3度目となるGGプロジェクトへの参加が決定し、多くの子供達や保護者の方々にならやまにお越しいただき、自然遊びや自然観察を通じ自然環境保全の大切さを体感していただいた事、さらに林野庁の森林・山村多面的機

能発揮対策交付金や経団連の自然保護基金の助成を受け、ならやまプロジェクトに必要な設備、備品並びに活動基盤の整備は格段に充実した旨の報告があった。

最後に、今年節目となる当会設立15周年を迎え、新たに会の活動指針となる理念の制定および会則改定を議案に上程したので、役員改選期に当たっての新役員選任と合わせてご審議頂きたい、との要請があった。

議長選出後、議案の審議に入り、

- 第1号議案 第15期 事業報告及び収支報告
- 第2号議案 第16期 事業計画案及び予算案
- 第3号議案 理念制定案および会則改定案
- 第4号議案 任期満了に伴う新役員選任

以上4議案が既に全会員に配布されている議案書内容に基づき事務局、会計から説明され提案。その結果、提案通り満場一致で承認され総会を終了した。

総会終了後、直ちに臨時総会に移り、提案通り新たな役員が選任され、役職については以下の通り決定した事が報告された。鈴木新会長からは新年度に向けての抱負と決意表明あった。

会長：鈴木末一 副会長：八木順一、羽尻嵩、森英雄 会計：田矢恵造 監査役：塩本勝也 事務局長：辻本信一 顧問：藤田秀憲(敬称略)



【花束贈呈】



【鈴木新会長の決意表明】

総会を締めくくるに当たり、これまで当会の活動にご尽力頂き、役員を退任された皆様へ感謝の意を表し花束を贈呈、それぞれお言葉をいただいた。

以上にて本日の総会は終了。午後5時からは場所を変え表彰を受けられた会員の皆様をお祝いすると共に新年度のスタートに当たっての親睦を深める為、懇親会を開催、多数の参加者を得た。

皆様のご協力を得て第15回通常総会を滞りなく終了できましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。有難うございました。

(事務局：辻本 信一)

新 風 I

会員の親睦と絆を強め
会の活性化にお力添えを!!!

幹事の重責を思う 中井 弘

当会に入会して早や4年目を迎えました。
「奈良・人と自然の会」が創立15周年を迎える
記念すべきこの年に幹事を拝命し、これからの歴史
を創っていく責任を感じております。

2004年3月に「シニア自然大学校」で自然環
境保全のため山林の間伐・整備の重要性を学んだ
10人の人たちが、柳生に近い忍辱山・園成寺付近
で国有林に於いて「なら忍辱山森林整備事業」に
取り組まれたのが、里山林景観整備活動の始まり
と聞いております。

「ならやま」に遷って10年、以来たゆまぬ大
変な努力でササや灌木が繁茂する荒地を開墾し、
不法投棄の廃棄物を除去して今日の肥沃な農地や
すばらしい景観、自然環境を造ってこられました。
いまや150人の志を同じくするメンバーに恵まれ、
見事な組織編制・運営をしてこられた幹部の皆様
に敬意を表します。

後から入会した私達は、これまでの15年の歴
史を受け継ぎ、更に発展させていく責務があり、
身の引き締まる思いです。

先輩の皆様のご指導よろしく申し上げます。



ご挨拶 竹本雅昭

灰色の脳細胞が言うのです「ズート灰色だった
のに急にピカッと活性化とはいきませんよ」。
すると心が言うのです「なあ〜に何とかなるんじ
ゃない・・・」と無責任なことを。確かに両方共
合っているかも、他に誰か助言はないかな?口も
遠慮がちだし、えゝとこ何もないけど諸先輩から
ご指導を受けながら錆びた脳に油をさして、これ
程までに立派な会に育てていただき大変楽しい里
山です。微力ながらこれからも生き生きした雰
囲気が持続できますようお手伝いできればと思いま
す。

「幹事会!!」 上西千代子

4年前に入会させていただき、花畑で楽しく活
動しています。身体を動かす事しか能力のない私
に、幹事の方から今回幹事のお話があり、「私に
はとてもできない事」とお断りしたのですが、熱
心にお誘いがありお引き受けしました。

幹事会の事は何も分かりませんが、皆様のお知
恵をお借りしてお手伝いしていきたいと思っ
ております。

よろしく願いいたします。



教えてください 岡崎節子

ならやまの自然を愛する会の皆さんの優しい笑
顔に誘われて、週一回皆さんと一緒に活動ので
きる楽しさと喜び、そして元気を貰っていた私に、
幹事の話が舞い込んできました。その時「でき
ないです」と断りました。植物、花の名前を教
えて貰っても、右から左に筒抜けしてしまう私
には無理と再々お断りしましたが、断りきれな
くなくなって引き受けたものの不安で一杯です。
悔やんでも遅いですね。

4月の幹事会にオブザーバーとして参加しま
した。初めての会議、役員さんは会の為の思
いの真剣な会話にただ啞然として聞いている
だけでした。こんな私です。皆様のお知恵を
拝借してお手伝いできるように努力してい
きたいと思っています。皆様よろしくお願
いします。



当会の発展を祈って 塩本勝也

このたび監査役に選任されました塩本です。
この1年間ノンビリさせて頂き、お役に立
てることもないと思っておりましたので、い
ささか驚いております。

当会は15周年を迎え活動分野もますます
拡がり、運営資金の調達も多岐にわたって
います。

小生のようなものに監査役が勤まるの
か心配ですが、当会発展のため会計監
査にあたらせて頂きますのでよろしく
お願いいたします。

新風Ⅱ

会員の親睦と絆を強め
会の活性化にお力添えを!!!

お役にたてるように 櫻木晴代

退職後は気楽に気儘に過ごそうと心に決めていました。野の花大好き、手づくり大好きな私にピッタリのシニア自然大学校の有意義な一年を経て、「明るく、楽しく、無理をせず」がモットーの当会に入会。私自身、ならやまへの「時々参加」から「時々休み」への変化を感じ始めていた今日この頃ではありましたが、幹事を引き受けることになろうとは夢にも思っていませんでした。退職時に心に決めた気ままにが、できなくなると考えていたからです。

ところが4、5人の幹事の方から立て続けに声がかかり断る事も考えましたが、誰かが引き受けなければならないことなら、一年でも若いうちにと考え引き受けることにしました。何の特技もない私ですが、次の方にバトンタッチする時まで何らかのお役に立てたらと思っています。



幹事に復帰?? 森 英雄

昨年春、体調が極めて悪くなり副会長の職を辞してから、1年間のマイペース調整を行い、徐々に回復してきました。そんな折に幹事(候補)の打診があり正直困惑しました。しかし恥ずかしながら受ける事に覚悟を決め、このたび幹事に復帰いたしました。

幸いにも今春に45日間掛けて四国八十八霊場の逆打ち歩き遍路を済ませた事により、心身共にすっかりリフレッシュ出来ました。今は新たな気持ちで、頑張ってみたいと思っています。

入会時(8年前)には例えばならやま活動参加者は20人程度でしたが、今や60人を越えた大所帯。このような急速な発展の為に、運営面等で少し綻びが見えたりすることがあります。幹事の一員としてこれらも考えながら、少しでも会のお役にたてる事があればやってみたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

頑張ります 下村晴文

仕事をやめて、丸2年。毎日が日曜日という生活にもすぐに慣れ、リズムが出てきました。ならやまの活動は、何の知識も経験もないまま、ボーと草刈り隊に参加し、現在まで何とか続けています。初めは体力的に非常にきつく、続くか不安でしたが、ようやく慣れてきました。やっと3年目に突入したこの頃ですが、草刈りだけでなく、歴史文化クラブやそばクラブの活動にも参加し、楽しく過ごしています。今後も身体の続く限り、無理をせず、自分のできる範囲で楽しく、何とか頑張りたいと思います。よろしくお祈りいたします。



新幹事を引き受けて 永井幸次

人と自然の会に入会して10年目になりますが、ならやまでは4年目。まだまだ新人のつもりですが、ならやまに参加してからは、木曜日はならやまの日として、景観グループで草刈りをやっています。

植物、昆虫、野鳥など自然観察などに興味がありますが、何も知りませんが周りにスペシャリストがおられ、楽しくやっています。

川井さんから幹事にと声がかかり、果たして私に何が出来るかと思いましたが、皆様のご指導を頼りに迷惑をかけないようにやりたいと思っています。



ならやまのシジュウカラ
(無事に巣立って欲しいですね)

やさしい病害虫講座 23

「矢でも鉄砲でも持ってこい！
母は強いんだ！！」

木村 裕

春になってよく問い合わせがあるのは、「ウメの枝に赤くて玉のような物がいっぱい付着している」のは何ですか？ 答えはタマカタカイガラムシのお母さんです。ウメに最もよく発生しますが、バラ科植物に寄生するとされており、私はボケやユキヤナギでも発生を確認しています。



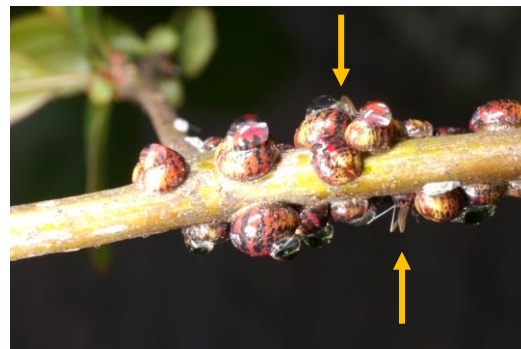
【赤褐色はメス成虫、白色はオスの蛹のぬけ殻】

通常は扁平な虫で枝にへばりついていて目立ちませんが、春になってお母さんが卵を産む準備に入ると体が丸く大きく膨れ上がります。やがてその表面は堅くなり、その内側に卵をいっぱい産みこみます。ビービー弾よりも少し大きく、直径4～5ミリくらいあります。ほとんど球状で、赤褐色～暗褐色で表面に黒い模様があります。皆さんの目にとまるのは、この膨らんだお母さんです。

5月頃、この球を枝から剥がすとパラパラと粉がたっぷり落下します。小さいので粉のように見えますがすべて卵です。虫メガネで観察してください。年に1回の発生で、6月初め頃には卵からふ化した幼虫は安全なお母さんの丈夫な殻から這い出し、散らばって付近の葉の裏に取りつきます。葉裏にたくさんの幼虫が取り付くこととなりますが、淡黄褐色で小さいので気づく人はおりません。葉裏から汁を吸いながら成長し、秋になって葉が落ちる頃になると、これはやばいと感じるようで、そそくさと枝の方へ引っ越しします。

寒い冬は枝上で過ごし、春になるとオスは蛹となり、やがて羽のある蚊のような成虫になります。メスはそのままの状態です。羽が生えることはありません。

せん。赤褐色の球の付近にたくさん見られる白い俵状のものはオスが成虫となって飛び去った蛹の抜け殻です。



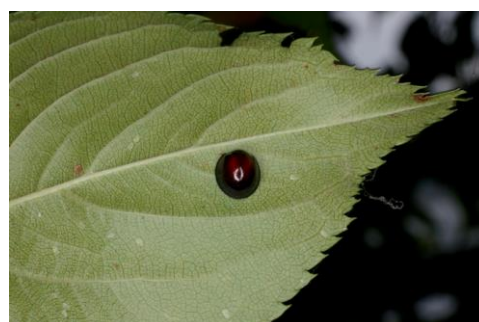
【球体はメス成虫、矢印はオス成虫】

メスの球体は表面が堅くて丈夫なため、いくら強い薬剤を散布しても防除効果はありません。手で捕らえて潰すのが最も効果的な防除法です。もし薬剤を使うのなら、小さな幼虫が這い出すのが終わった7月頃が適期です。また、秋に葉が落下した頃に枝全体に散布すれば簡単かも。

また、この虫を好物とする有力な天敵、アカホシテントウムシがいます。成虫は黒紋付に日の丸模様をあしらった美しい甲虫ですが、幼虫は灰色で体全体に刺がいっぱい備えているので気味が悪く、皆さんこの虫が悪者だと思って一生懸命潰しておられますが、とんでもない間違いです。この虫が頑張っているようなら何もしなくてもカイガラムシは全滅します。大事に保護しましょう。



【アカホシテントウの幼虫】



【アカホシテントウの成虫】

鯉のぼり朱雀門を越えてこよ鈴木 末一

鯉幟は五月の風物詩。鈴木家から宮跡に近い。満腔の鯉たちよ
ここまでやってこい。子供の歓声が聞こえる。

春田打つ四十雀の子竹巣箱鈴木 末一

先日太い竹杭に小さな命が四羽。鳥たちも住宅難、巣づくり
悪戦苦闘の態。梢から親の警戒音、畑仕事も一休み、大丈夫だよ。

小野の野の古き社に風光る青木 幸子

四月歴史例会。上五、の・の・のののののののののののののののの
の季語がこの季節を象徴して、寂びれた社域に明るさが増す。

月見草庭に明かりのあるごとし青木 幸子

この季の白い花は闇夜の一点に値して優雅。「如く」俳句として
賛否があるが下五の抑えが良い。窓辺でビールでも飲んでの。

したた

水滴る千年清き三井の井戸古川祐司

四月歴史例会。名刹 三井寺拝観。閑伽井屋の井戸での作。
天智・天武・持統三天皇が産湯を使われた。正に霊泉。

あつ

風薫る穴太名代のとろろ蕎麦古川祐司

日吉大社近く。老舗「鶴喜そば」で昼食。
二階の座敷に快い五月風。旨さは言うに及ばず。美味・美味。

むくろじ

春の無患子シヤボン虫をひとくさり小山喜与男

小野郷の古社の無患子の巨木。昔、果皮は石鹼に使う。
話題に花が咲く。秋には落果を拾いに来ますかな。

俳句百景

監修 川井秀夫



春落葉往時偲ぶる小野の社小山喜与男

小野郷の社は、かつて日吉大社と官幣大社だったと言
う。栄枯は世の常、常緑樹の落葉が時代の盛衰を物語るようだ。

花粉症蟄居の窓に雲雀揚ぐ坂東 久平

症状の方にはつらい季節。座敷牢のようなひととき、雲雀の
うたが聞こえる。早く謡いこんだ民謡をお聞かせ下さい。

飛機の羽根矢田大宮に風薫る坂東 久平

飛機は飛行機の略。戦時中の遺品を祀る社が多くある。
国家神道の名残りだろうか。今、戦争の虚しさを憶える。

湯の上の漁火揺るる春の宿八木 順一

作者は旅好き。漁火は旅情を掻きたてる。海の見える温泉郷。
嗚呼羨ましいね。湯船に酒杯を乗せれば最高ですなア。

さくらんぼ

川端に桜蕊あり絵筆染む八木 順一

一章二句の味あり。作者は時にスケッチを楽しむ。
「桜蕊」に惜春の余情がある。絵には詩あり、俳句に心ありか。

小町塚道風もゐる蛙鳴く川井 秀夫

四月歴史。絶世の美女も小野一族。道風も能書家・詩人である。
花札の柳に蛙の図柄を思う。石の蛙が置かれ季節の音が聞こえる。

青楓三井の晩鐘蒼くなり川井 秀夫

花が終り緑の季節。青銅の名鐘がひととき蒼くみえる。
空は青、叡山から吹き下ろす風が瑞々しい。遙か湖面の藍よし。

癒しの散歩道

五月雨の青葉に零れ落ちる恋のしずく

谷川萬太郎

(1) 季節は春なのに春なのに 遣らずの雨は哀しみ誘う
 貴女が暮らす街が好き 貴女と出会ったこの街が
 飾らぬ貴女の優しさは 私の大切な々心の故郷だった
 夢を追い駆けたあの頃 互に思いを寄せ合いながら
 野に咲く花や鳥のように 喜びに溢れくる日々だった

(2) 季節は春なのに春なのに 小糠雨は貴女の身代わりなの
 いつか夢みた恋花の行方に 切なくも散りゆく花卉は
 貴女からあの笑顔を奪った 私の悲しい々思い出だった
 どうせ貴女と私は添えぬ仲 そっと未練花に心預けて
 儂い恋に疲れ瘦せたその身は 寂しく辛い別れの涙坂へ



ならやま茶論

「堅穴式ハウス」

竹本 雅昭

ピー子：早く頂戴早く…うん？おかしい…
 ととでもかかでもないようね。

パー吉：さっきからどうもおかしいと思って
 たら、暑くなってきたので人々が
 木陰へ移って来たんだよ。

竹 筒：君たち心配せんでえよ。私がしっかり
 杭を芯に抱えて立っているから、誰も
 いたずらできないさ。

ピー子：えよ分かったわ、私たち四十雀4人
 兄弟でとともかかもエサ運びにとっても
 忙しいと思うの。

パー吉：そうだよ、美味しい虫を新鮮なうちにと
 思っても高い枝で警戒して、直径10cm
 穴へはすぐ入れないから人々には気を
 使ってほしいな。

竹 筒：安心したまえ、ここの人々は大丈夫、
 私が保証するよ。君たちは杭の頭に乗った
 巣に生まれて安全だが、ご両親の羽根を
 傷付けないかと気が気でないよ。

ピー子：竹さんの割れ目から一筋の光が
 入ってくるわ。そんな薄暗い中で
 私たちのウンチをこまめに
 運び出してくれるととやかかには
 とっても感謝してるの。

パー吉：黄色い口角を思い切り開けた嘴へ
 エサをもらった時は頬が一杯に
 膨らんでとっても幸せ、早く
 飛べるようになって腹一杯に
 食べたいなあ。

竹 筒：いくら脇で人々が弁当食べてる
 からって、君たちは程々にせんと
 メタボになっては大空を
 飛べないぞ。

～終～





皆様方からのご応募をお待ちしています。
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品
パッチワーク・切り絵など



▲「初夏のひと時」羽尻嵩（墨彩画）



▲「染め花」辻本愛子



▲「赤煉瓦の倉庫」永井幸次（水彩画）



▲「高野山にて」八木順一（水彩画）



▲「猫」小島武雄（素焼き前）

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

6月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)
7月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：八木 順一



里 山 Gr

- 6/2** 協働作業の日
椎茸の本伏せ（午前中協働作業）
林野庁／里山林整備作業／薪割り
- 9**
林野庁／第5地区整備作業／薪割り
- 16** **23** **30**
林野庁／ならやま里山林整備作業／薪割り

エコファーム Gr

- 6/2** 協働作業の日
田植え準備 水路整備
- 9** 午前 佐保台小学5年生田植え 22名
午後 会員田植え
- 16** 田植え予備日
玉ねぎ ニンニク畑 耕耘 ジャがいも収穫
葱（九条 下仁田 岩津）定植
里芋追肥土寄せ 茄子 トマト 唐辛子類の追肥
- 23** 春の感謝祭
南瓜 西瓜 つる整理 追肥 サツマイモ
除草 追肥 シャガイモ収穫
- 30**
ジャガイモ畑耕耘 イチゴ畑耕耘

景 観 Gr

- 6/2** 協働作業の日（ならやま一斉清掃）
第5地区一 斜面の除草及び果樹の手入れ
池整備。紫花菜撤去、花ナス種播、アヤメ園整備
観察路の草、笹刈り取り
- 9**
第5地区一 そば畑と各通路の除草
西池の水生生物調査
アイリス撤去・移植、菊移植
なら枯樹木の落下危険枝等の除去
- 16**
第5地区一 竹林の整備と雑木林の伐採・草刈
池の整備
山野草園草引き・施肥、柵作り、名札
希少植物等の保護柵設置
- 23**
佐保自然の森一 そば畑周辺の草刈
西池の水生生物調査
皇帝ダリア園草取り、柵作り
樹木銘板の交換、補修
- 30**
BC周辺の草刈／池の整備
夏花施肥、草取り、コスモス種まき
観察路の草、笹刈り取り



ならやまのシジュウカラ



行事案内 part 1

自然教室チーム 6月観察会のご案内

木々の緑が目にも染みる素晴らしい季節がやって参りました。

自然教室チームでは、これまで見落としがちだった、私達の活動の場である「ならやまの里地・里山」に育つ身近な植物に目を向け、四季折々、どのような草花、どのような樹木がこの地に息づいているのか、ならやまベースキャンプを起点に調査を進めて行きたいと考えております。

今回はその第1弾として、「夏のならやま観察会」を下記要領にて開催致します。

特に外部よりの講師は頼みません。

時にはそれぞれお持ちの図鑑を参考に、お互いで知っていることや気付いたことを教え合い、みんなであらやまの植物に親しんでいただきます。

植物に対する関心、興味(或は愛情)さえあれば、深い知識等は必要ございません。

出来るだけたくさんの方にご参加いただき、楽しくにぎやかに実りある観察会にしたいと思っておりますので、皆様、奮ってご参加ください。

いつもと違うならやまの発見につながるかも分かりません。“乞う！ご期待！！”

(調査結果は、それぞれの植物ごとにA4用紙1頁くらいにまとめ、ラミネート処理したものを後日だれでも、いつでも閲覧できるようベースキャンプに保管したいと考えております。)

1. 日 時：6月8日(水) 10時～14時
2. 集合場所：ならやまベースキャンプ
3. 持参物：弁当、飲み物、(小雨対策としての) 雨具、ルーペ、有れば図鑑など
4. 進め方：ならやま里地・里山内の夏の植物を観察し、お互いが教え合い、調べ合いながら、私達の活動の場の身近な植物の同定(植物の種を特定する事)を行います。
5. 担 当：自然教室チーム 辻本信一

6月月例研修会ご案内 矢田丘陵歴史散歩



矢田郷及びその周辺は、奈良時代の昔から栄えており、郷内に存在した古代寺院に、金剛山寺(矢田寺)・東明寺・松尾寺などがある。

6月の月例研修会は、歴史ある矢田丘陵の古寺、神社などを散策します。終着の矢田寺で、美しいアジサイの花盛りを鑑賞します。

1. 富雄丸山古墳

墳丘は自然地形を利用した南北径102m 高さ12mの円墳で、卑弥呼の墓との説もある。

2. 東明寺

かぞうざんとうみょうじ
鍋蔵山東明寺は舎人親王が創建という。木堂は享保年間の再建で、軒下の彫りものが有名。

3. 矢田坐久志玉比古神社

祭神は櫛玉饒速日命で、俗に矢落神、矢田大宮ともいう。にぎはやひのみこと あまのいわふね 饒速日命が天磐船に乗り降臨した時に3本の矢を射て、うち2本目がここに落ちたという。二の社伝によって飛行の神とされる。

4. 金剛山寺(矢田寺)

矢田山と号し矢山寺ともいう。地蔵菩薩を本尊として栄えた。江戸時代には20カ坊があった。現在はアジサイ寺として有名。

《実施要領》

- *日時：6月14日(火)(雨天中止)
- *集合：近鉄学園前駅南口 8：45
- バス：㊸若草台行き 9：02発
丸山橋 9：14着

(若草台行きバスは、富雄駅発9：05、大和郡山駅発9：05でも、OKです。)

(弁当、飲料、雨具、ストックをご用意下さい)

- *コース (歩行距離：約8km)
- 近鉄学園前駅→丸山橋→富雄丸山古墳→矢田遊びの森→東明寺→三の矢塚→矢田坐久志玉比古神社→矢田寺→近鉄郡山駅

*担当：西谷、中井、坂東、寺田

↓富雄丸山古墳





行事案内 part 2

15周年記念“春の感謝祭”

紫陽花が大輪の花を咲かせ、青葉一段と色濃くなってまいりましたならやまベースキャンプで、今年も恒例の「春の感謝祭」(馬鈴薯祭)を開催します。今年は、会設立15周年、ならやま景観整備10年の記念すべき節目の年に当たります。

例年とは違い、少し趣向を凝らしたメニューにしようかと、エコファームグループ一同色々アイデアを出し合い、ならやま産の有機野菜たっぷりの「ならやま特製カレーライス」を、会員の皆様にご賞味していただこうと考えています。春作野菜も育苗ハウスを増設し、グループの皆さんが毎日水当番を決めて、丹精込めて苗作りに励んでいただきました。お陰様でグループの皆さんの情熱に応えるかのように、苗も順調に育ち、畑で健やかに生長しています。馬鈴薯、茄子、玉ねぎ、ピーマン、トマト、レタス、ズッキーニ等の各種野菜をふんだんに盛り込んだ、健康・自然食をご提供できればと考えています。また、ご飯は、ならやま有機栽培米の黒米入りをご用意します。カルシウム・マグネシウム・脂肪や糖質の代謝を助けるビタミンB群などのミネラル分は、白米の比ではなく、さらに黒米に含まれるアントシアニンは、美肌や美髪を作り出す美容効果や視力を回復するという効果もあると言われていています。豊富な栄養効果のある黒米も是非ご賞味ください。

エコファームグループと女性会員の皆さんの応援をお願いしています。1人でも多くの会員の皆様方のご参加をお待ちしています。

なお、カレーライス用のお皿とスプーンなど、ご持参ください。

開催日:6月23日(木)、雨天の時:30日(木)



7月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

7月 7日 協働作業の日

7月23日(土) GG イベント

夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう!

*月例研修会

7月19日(火) 清涼ウォーキング
(鞍馬寺から貴船神社へ)

*歴史文化クラブ

7月26日(火) 高見川源流から宮瀧遺跡

*「奈良県山の日・川の日」イベント

7月18日(祝) 森林体験山もり・てんこ森
(奈良県立野外活動センター)

★--♪--★--♪--★--♪--★--♪--★--♪--★--♪--★--♪--

仲間入りしました



中島 善子

シニア自然大学の先輩が主催される植物観察クラブの活動のひとつで、このならやまプロジェクトに参加をさせて頂いたのは3年前の事です。

その時は確か竹の伐採、花畑の手伝い、植物観察などで、丁度そばの花が咲いていたように覚えていています。なかでも印象深いのは沢山の美味しいおもてなしでした。それから会員の皆様の雰囲気、なんとも温かく思いやりにあふれているように感じられました。先輩が「ここの人達は素晴らしい人ばかりだから」と仰ってましたが、本当にそのような活動をされているなあと思います。

昨年は2回教育実習でお世話になりましたが、本科終了時には迷わず、この会の仲間に入れて頂きたいと思いました。

四季折々のならやまでの、いろいろな里山体験を楽しみにしています。どうぞ宜しくお願いいたします。



平成28年・5月度幹事会報告

日時: 平成28年4月19日(火)17時～19時40分

場所: 奈良市中部公民館 3F 視聴覚室

出席者: 顧問・幹事・監査役並びに新役員候補者
計31名(欠席者1名)

議事:

I. 会長挨拶: ①現体制最後の幹事会。新役員候補も参加。②総会に向け議案書審議が中心。

II. 事務局報告: 会員動向 153名(1名増)

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

- 3ヶ月スケジュール、当月スケジュール確認
7月18日に「山もり・てんこ森」イベント追加。
- ならやまプロジェクト関係:各担当幹事より報告並びに説明。6月協働作業にシイタケの本伏せ。
- 活動報告と予告: 月例研修会、自然教室、歴文クラブより報告並びに予告。

4. 通常総会: 資料は5月号会報に同封し配布。

・第1号議案 第15期事業報告・第2号議案 第16期事業計画(案)・総会実施要領: 事務局より内容説明。ならやま開催イベントのうち、チェコ・コンサートはその他の項に移す事になった。

・第1号議案 第15期収支報告・第2号議案 第16期予算(案): 会計より説明。森林多機能交付金構成・収支報告。内容に付き質疑応答。

・第3号議案、理念制定、会則変更の件: 事務局より説明。理念第1項、歴史的景観を歴史的風土に表記変更。

・第4号議案、役員選任の件: 再任12名、新役員9名が候補者として承認された。

IV. 広報関係: 会報6月号の編集内容・担当の報告。

V. 周年行事関係: キャッチフレーズ23件、ロゴマーク3件の応募。月末を目途に最終決定予定。

VI. その他

・奈良市助成制度「さわやかクリーン奈良」並びに「アダプト」事業の紹介がされた。

次回6月度幹事会は5月31日(火)午後5時、中部公民館にて開催予定。 以上

◆ 申し合わせ ◆

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆ 2年目に向けて

昨年6月から早くも1年が経ちました。編集チームや寄稿を頂いている皆様のご協力を得て、何とか任務を果たしてきました。紙面をお借りして皆様に深く感謝します。

編集方針として、「当会が何を目指して、何をしようとしているのかを情報として共有し、日々の活動に活かせることが出来るようにしたい。」と考えてやってきました。

今後も、質実剛健・簡潔で内容のある紙面作りを目指しますが、出来るだけ多くの会員が参画できるように、構成を見直して参ります。

会の活動や行事の案内と報告、「里山の今」(ベースキャンプで活動される多くの方が参画)、等を主体として、文学や芸術にも目を配りたいと考えています。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第173号

発行: 奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末 一

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表: 坂東久平